

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
1	19時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（40歳代）2階台所のガステーブルで、てんぷら油を処分するため、凝固材を入れる前にてんぷら油を加熱したが、その場を離れている間に油が過熱され発火した。	てんぷら油を入れた鍋を火にかけたまま、女性がその場を離れ、3階で作業していたところ、台所に設置してあった火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音が聞こえたので2階台所へ戻った。鍋から炎が天井まで上がっていたため、掛け布団で鍋を覆い、その上から水道水をかけたが完全に消えなかったため、台所に設置していた消火器で消火し、携帯電話で119番通報した。	
1	2時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（60歳代）がガスコンロで煮物を作っている途中、鍋を火にかけたまま、その場を離れ寝入ってしまったため、鍋の空焚きとなった。	隣人が車で外出先から帰宅した際、隣のアパートから警報音と、焦げ臭い匂いがしたので、火災と思い110番通報した。 居住者の女性は一人暮らしで、消防隊に起こされるまで気づかずに寝ていたが、負傷にはいならず済んだ。	非火災
1	10時頃	住宅用火災警報器	女性（20歳代）が片手鍋に水を入れガスコンロでインスタントご飯を温めている間に隣室で寝入ってしまったため、鍋の空焚きとなった。	自室ロフトに設置してある、住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、鍋から煙が出ており室内に煙が流れ込んでいたので、ガスコンロの火を消してから、携帯電話で119番通報した。	非火災
2	5時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）がやかんでお湯を沸かそうとガステーブルに火をつけた後、その場を離れている間にガステーブル周辺にあった紙くずに着火した。	就寝中であった隣戸の女性（40歳代）は、子供から「火事です、火事です」との音声がかかると起こされたので、ベランダに出て確認すると、隣の住戸から煙が出ていたので、119番通報した。消防隊到着まで風呂水をベランダ側からかけ続けた。	
2	0時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）がそうめんを茹でようと、ガスコンロに火をつけたまま、隣室で寝込んでいる間に、鍋が空焚きとなった。	隣戸の男性が、警報音に気づき、外に出たところ煙が出ていたので119番通報した。寝込んでいた男性も警報音に気づき、ガスコンロの器具栓を閉めた。	非火災
3	12時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（30歳代）が風邪をひき、寒気がするので、電気ストーブをつけベッドで寝ていたところ、掛けていた布団が電気ストーブに接触、布団に着火した。	風邪のためベッドに寝ていた女性（30歳代）は台所に設置してある火災・ガス漏れ複合型警報器の音声警報で目が覚め、布団が燃えていることに気づき、自宅の電話で119番通報した後、1階の大家に知らせた。大家が玄関先の散水栓からホースを延ばし消火を試み、室内10㎡焼損する火災にとどめた。	
3	23時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が、てんぷらを揚げようとガステーブルで油を温めながら、隣室で家事をしていたため、油が過熱され発火した。	女性（70歳代）は、台所の隣室で家事をしていたところ、台所に設置してある火災・ガス漏れ複合型警報器から「火事です、火事です」と音声警報が聞こえたので、台所に戻るとてんぷら鍋から炎があがっていたので、台所に設置の粉末消火器を使って消火した。	

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
3	4 時頃	住宅用火災警報器	オイルヒーターと接続していた延長コードコネクタのプラグ部分でトラッキングが発生し、周囲の紙類に着火し出火した。	就寝中の男性（30歳代）は、同室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、足元から炎が出ているのを発見、掛けていた毛布を炎に被せたが消火できず、浴槽から水を汲んで消火した。通報は東京電力社員に促され約5時間後に119番通報した。	
3	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が、てんぷら油を捨てるため鍋に凝固材を入れガステーブルで加熱中、他の用事をしているうちにすっかり忘れてしまい、油が過熱され発火した。	女性（70歳代）が、用事をしている時に、「火事です」との音声警報が聞こえたので台所に行くと鍋から炎があがっていた。同女性は座布団2枚で炎を抑えた。	
4	21 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）が、調理のために、フライパンに油を入れ、ガステーブルにかけたまま、隣室で片付け物をしている間に、油が過熱され発火した。	女性（30歳代）は、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音で、台所に行くとフライパンから炎が出ているので座布団を被せ、さらに水道水をかけて消火した。 通行人が煙が上がっているのを見て、火元建物の居住者に声をかけたが答えがなかったため、隣の居住者に火災を知らせた。知らせを受けた居住者は窓から煙が出ているのを確認し119番通報した。	
4	14 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）がガスこんろに片手鍋をかけたまま散歩に出かけてしまったために、鍋の空焚きになった。	付近を通りかかった消防小隊が、住宅用火災警報器の警報音と玄関付近に漂う薄煙、さらに焦げたような臭気があることから、居住者に声をかけたが応答がないため、住居内に入ると台所の片手鍋から白煙が出ており、天井に設置の住宅用火災警報器が鳴動していた。鍋の中には炭化したジャガイモがあり、消防隊が火を消した。居住者は約10分後に外出から帰宅した。	非火災
4	16 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）がガステーブルの魚焼きグリルで魚を焼いていたが、火を止めるのを忘れ外出したために、調理中の魚とグリル内の油がすに着火した。	近所の主婦（20歳代）が居室にいたところ、煙が入ってきたので、外に出てみると北側の住宅から警報音が聞こえ煙が出ていたので妹に知らせ、妹が携帯電話で119番通報した。 出火元の玄関は施錠されいなかったため、発見者とその母親、近くにいた人達が室内に入り、協力して流しの水をグリルにかけて消火した。	
5	18 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）が調理のため、鍋を火にかける際、誤って木製盆をのせていたこんろ側をてんかしたために着火した。	隣の共同住宅に住む男性（50歳代）が自室で寛いでいると、隣の住宅から「空気が汚れています」と警報音声がかかったため、窓を開け確認すると住宅の窓から煙と炎が見えたので、携帯電話で119番通報した。火元住宅の女性は警報音声をテレビの音と勘違いし火災に気づかなかったが、隣人の火事だとの声で火災に気づき、こんろの火を止め、水道水で消火した。	

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
5	14 時頃	住宅用火災警報器	飲食店を営する男性（70歳代）が住宅の台所で、ガステーブルを使用しててんぷらを揚げた後、火を消すのを忘れ、客と話し込んでいるうちに、てんぷら油が過熱され発火した。	店主は、警報器の警報音が鳴動したので、妻に台所を見に行かせたところ、炎がてんぷら鍋から換気扇まで立ち上がっていた。妻の「火事だ」との声で、店主は客の男性に119番通報を依頼し、店の厨房設備に設置していた消火器と台所のエアゾール式簡易消火具を使用して火勢を抑えた。	
5	2 時頃	住宅用火災警報器	センサーライトのコードをベッドの金属製支柱に1年ほど前から針金で縛りつけ固定していたが、ベッドの振動等によって針金が食い込み、電源コードが短絡した。	女性（60歳代）が、寝室と同じ2階にあるトイレにいと、寝室に設置してある住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので、寝室に戻ると、ベッドに取り付けているライト付近の布団から炎があがっていた。もう消火できないと思い、110番通報した。	
5	18 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（20歳代）がてんぷら鍋に残っている油を捨てるため、凝固材を入れた鍋をガスこんろにかけて加熱中、居間で他の家事をしている間に過熱され発火した。	居間で家事をしていた女性（20歳代）が台所に設置してある、住宅用火災警報器の警報音声を聞き、台所に行くと、てんぷら鍋から炎が出ていたので、台所に置いたエアゾール式簡易消火具と洗面器の水で消火した。	
5	8 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）が、ガスこんろでお湯を沸かした後、点火したままのこんろ上に電気炊飯器を置いたために、樹脂製の外釜に着火した。	1階にいた女性の孫が、住宅用火災警報器の警報音声と煙で火災に気づき、2階にいる両親に知らせた。女性（80歳代）は電気炊飯器が燃え出したので、ガスの元栓を閉め、計量カップに水を汲んで消火した。	
5	7 時頃	住宅用火災警報器	女性（年齢不明）が朝食の目玉焼きを調理中に、子供が泣き出したのでその場を離れ隣室で子供をあやしているうちに、過熱状態になり、発煙した。	隣室で子供をあやしていた母親は、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音で、目玉焼きをしていたことに気づき、台所をみるとフライパンから煙が出ていたので、こんろの火を止めた。	非火災
5	17 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）が、麺を茹でている途中に入浴したために、鍋の空焚きとなった。	通行中の女性（20歳代）が、警報音に気づき、音の方向を見ると窓から煙が出ていたので携帯電話から119番通報した。入浴中の女性は警報音には気づかなかった。	非火災
5	23 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（20歳代）が、揚げ物をしようとガステーブルでてんぷら油を加熱中に隣室のベッドでうたた寝をしてしまったために油が過熱され発火した。	男性（20歳代）は煙たさで目を覚ますと台所の鍋から炎があがっていたので、ガステーブルの火を止めた。通報は上階の居住者が火災・ガス漏れ複合型警報器の音声警報を聞き、窓を開けると焦げ臭いにおいと煙たかったので火災と思い119番通報した。鳴動した警報器は通報者とは同階の別住戸（留守）に設置してあるものであった。出火した住戸には警報器の設置はない。	

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
5	4 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（70歳代）が、吸ったたばこの火種がシーツに落ちたことに気づかず就寝したため、無炎燃焼を継続し出火した。	妻（80歳代）が主人の寝ている隣の部屋で就寝中、パチパチという物音で目が覚め、夫の部屋を見ると、炎があがっていたので、台所からボールに水を汲んでかけたが消火することは出来なかった。一方、出火した住戸の隣の部屋の住人が、就寝中出火住戸から「換気してください」という警報音声がかえったので、音声の聞こえた住戸に行くと、玄関の鍵が掛かっていたので、大声で鍵を開かせ女性（80歳代）を避難させた後、自宅に戻り119番通報した。	
6	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）が、ガスこんろの炎をとろ火にして、みかんの皮を煮込中、煮込んでいることを忘れ、外出してしまったために、鍋が空焚きとなった。	隣接する住宅に居住する主婦が、家事をしていると、外から警報音が聞こえるので、確認すると、警報音は隣の住宅からで、きな臭いにおいもしたので自宅から119番通報した。	非火災
5	12 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が、電磁調理器で調理中、調理していたことを忘れたため鍋の空焚きとなった。	別室にいた家族が、住宅用火災警報器の鳴動に気づき、台所に行くとき鍋から煙が立ち上がっていたので電源を切り、119番通報した。（緊急確認扱い）	非火災
6	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）が、てんぷらを揚げようとガステーブルで油を温めながら、居間で後片付けをしていたため、油が過熱され発火した。	女性（50歳代）が、居間で後片付けをしていたところ、住宅用火災警報器の警報音がしたため、台所に行くときガステーブルの上のてんぷら鍋から炎が出ていた。女性は119番通報後、てんぷら鍋に蓋をかぶせ消火した。	
6	13 時頃	住宅用火災警報器	洗濯乾燥機から出火	30歳代の夫婦が居室で寛いでいると、住宅用火災警報器の警報音が鳴り出し、焦げたような臭いと白煙が天井を這うように流れてきたので、ガスと洗濯機を確認した。炎は確認できなかったが、ブレーカーを切った後119番通報した。	
6	8 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（30歳代）が、出勤前に喫煙して捨てた吸殻が布団に落下し、無炎燃焼を継続した後出火した。	出火した部屋の隣戸に居住する男性が、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、外に出ると白煙が見えた。臭いで気づいた他の居住者もいたので119番通報を依頼した。	
6	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（60歳代）が外出する際に使用中のガステーブルの火を消そうとしたが、勘違いをして、もう一方のこんろを点火し外出した。 そのこんろには食用油が入っていた鍋が置いてあったために過熱され発火した。	隣人の男性が自宅で作業していたところ、隣家から「火事です、火事です」と警報音声がかえったので、外に出ると換気口から煙が出ており、窓越しに炎が見えた。 消火器を取りに家に戻る途中で、近隣の女性に出会ったので火事だと伝え自宅から119番通報した。 通報後消火器を持って駆けつけた発見者の男性が消火器を使って消火した。	

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
6	23 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（60歳代）が、てんぷら油を処理するためにガステーブルで加熱中、その場を離れ浴室でシャワーを浴びていたところ油が過熱され発火した。	女性（60歳代）がシャワー中扉越しに、台所が赤く見えたので、台所に戻ると鍋から炎があがっていた。消火器1本を使用し消火した。また、2階にいた男性（70歳代）は1階から「火事です」と音声警報が聞こえたので、1階に降り確認したところ、白煙が充満していたので自宅の電話で119番通報した。	
7	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（50歳代）が、片手鍋に入れたてんぷら油を凝固剤で固めようと、2階のガステーブルで油を加熱中に、その場を離れていたため油が過熱され発火した。	女性（50歳代）は、1階に下りて掃除をしていたところ、2階から「火事です」と音声警報が聞こえたので、台所に戻ると鍋から炎が換気扇あたりまで立ち上がっていた。急いで鍋を流しに移しクッションを被せて消火した。消火後119番通報した。	
7	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）がガステーブル上に電気炊飯器をおいたまま点火させたために、炊飯器に着火し出火した。	隣人の男性（20歳代）がテレビを見ていたところ、ピーピーと連続音がするので外に出ると、隣家の2階の窓が赤くチラチラ光り焦げ臭いにおいもしたので、「火事だー」と大声で近所に知らせ、119番通報した。「火事だー」という声を聞いた近隣者の女性2人が屋内に入り水道水と消火器で消火した。2階にいた火元の女性を発見者と近隣者が協力し避難させた。	
7	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼いていたが、友人から食事に誘われ、グリルに火を着けたまま、夫婦で出かけてしまったために、グリル内に溜まっていた油かすに着火し出火した。	同じ共同住宅に住む女性が出火した住戸の前を通った際、住宅用火災警報器の警報音がしてきた臭いにおいがしたので、ドアを開けて知らせようとしたが施錠され応答がなかったので、119番通報した。	
7	14 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が、ガステーブルで卵を茹でていたが、そのことを忘れ外出してしまったために、過熱され鍋の空焚きとなった。	隣に居住する男性が隣からピーピーと音が聞こえ、何の音か分らなかったが隣を見ると、窓から煙が出ていたので火事だと直感し119番通報した。	非火災
8	23 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）が蚊取線香をつけたまま就寝中にタオルケットが蚊取線香に接触し出火した。	道路向かいに居住する男性が「ピーピー」という音に気づき、外に出てみる時きな臭い匂いもするので、戸を叩いて確認しようとしたが住人の女性はなんでもないと戸を閉めてしまった。さらに他の近隣者が警報音と外の騒がしさから女性宅の窓から中に入り煙っていた布団とタオルケットを屋外に出して水で消火した。消火している姿を見た近隣者が119番通報した。	
9	10 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼いていたことを忘れ、外出したために発煙した。	外出した男性の娘（20歳代）が就寝中、警報音で目を覚ましたところガステーブルから煙がでていたので、119番通報し屋外に避難した。	非火災

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
9	18時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（30歳代）が、灰皿内のたばこの吸い殻をプラスチック製のゴミ入れに捨てたため、完全に消えていなかった吸い殻が、ゴミくずに着火し出火した。	男性は、浴室でシャワーを浴びていたところ、警報音が聞こえたので、浴室を出ると、台所に置いてあるゴミ入れ付近から炎があがっていた。同男性はエアゾール式簡易消火具で消火を試みたが完全に消火できなかったため、水道水を洗い桶に汲んで数回かけ消火した。同男性は消火後119番通報した。	
10	17時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）がガステーブルでスープを煮込んでいたことを忘れ、外出したために、鍋が空焚きとなり発煙した。	隣人の男性（20歳代）が住宅用火災警報器の警報音と臭気で火災だと思い119番通報した。	非火災
10	19時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼いた後、ガスの火を消し忘れ、グリルに付着していた油がすぐに着火、上部の湯沸かし器が焼損した。	出火した共同住宅の2階に居住する女性が外出のため、1階に降りたところ、出火した住戸からピッ・ピッと音がし、窓越しに炎のようなものが見えたので119番通報した。初期消火は同共同住宅に居住する男性2名が建物設置の消火器を使用し消火した。なお、出火住戸の居住者は台所から一番離れた居室にいたため警報音には気づいていなかった。	
10	1時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（60歳代）がガステーブルを使って調理中、調理していることを忘れ2階で就寝してしまったために、鍋が空焚きとなり発煙した。	隣人が火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音声に気づき、外に出てみたところ、換気扇から煙が出ていたので、119番通報した。2階に就寝中の女性は警報音声には気づいていなかった。	非火災
10	3時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（50歳代）がたばこを吸っているうちに寝込んでしまい、布団上にたばこが落ちたことに気づかず就寝していたために無炎燃焼を経過後布団に着火し出火した。	隣家の主婦（70歳代）が就寝中「換気をしてください」と火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音が聞こえたので、窓を開けると、再び警報音が聞こえたので、玄関戸や窓ガラスを叩き続けたところ、男性が顔を出し、部屋には煙が充満していた。男性に事情を聞いても要領が得ないので、建物内に入るとベッド上の布団がくすぶっていた。同女性は台所からやかに水を汲んで布団にかけ消火した。	
10	19時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）がガステーブルで野菜を茹でていたが、そのことを忘れ別室に行っている間に、鍋の空焚きとなり発煙した。	女性は別室にいたところ、住宅用火災警報器の警報音がしたので、台所にいくと鍋から煙がでていたので、ガスの元栓を閉めた。警報音を止めることができなかったため119番通報した。	非火災
10	11時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）がガスこんろで肉じゃがの調理をし、弱火にしていたがそのことを忘れ、仕事に出てしまったために、鍋の空焚きとなり発煙した。	近所の男性が、自宅にいたところ警報音が聞こえたので、外に出たところ女性宅の換気扇から煙が出ていたため火事だと思い119番通報した。	非火災

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
10	19時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が調理中の鍋をガスこんろにかけたまま、外出してしまったために、鍋の空焚きとなり発煙した。	近所の男性が、自宅にいたところ警報音が聞こえたので、外に出ると、女性宅の玄関から煙が出ていたため火事だと思い119番通報した。女性は外出先でガスをつけたままにしてきたことに気づき、家に帰りガスを消した。（消防隊と同時到着）	非火災
11	18時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼き、取り出した後火を消し忘れ、リビング側で食事をしている間に、受け皿に溜まった魚の油が燃えだし内壁を若干焼損した。	女性は夫と食事中、ダイニングに設置している住宅用火災警報器が鳴動したので、キッチン側に行くとガステーブルから炎があがっていた。夫と協力してタオルを水に濡らし、ガステーブルを覆い消火した。一方警報音に気づいた隣人の女性が駆けつけてきたので通報を依頼し、隣人により119番通報された。	
11	13時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼いていたが、そのことを忘れ5分ほど外出、帰宅後リビングでくつろいでいる間にグリル内の油がすに着火、ガス台と内壁を若干焼損した。	隣人の女性（50歳代）は、隣家からピーという連続音が聞こえたので、隣家の家の中を覗くと煙が漂っていて、居住者の女性が何も出来ずに立ちつくしていた。家の中に入り座布団2枚で消火を試みたが消火できなかったため、119番通報した。	
11	7時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が台所でご飯を温めようと鍋にご飯を入れ、ガステーブルにかけ、点火したままその場を離れているうちにご飯が焦げ、熱と煙が発生した。	女性の娘（40歳代）が2階居室にいたところ、「ピッ、ピッ、ピッ」と1階から警報音が聞こえたので、1階に行くとガステーブル上の鍋から煙が出ていたので119番通報した。	非火災
12	13時頃	住宅用火災警報器	男性（90歳代）が台所で、焼き芋をしようとして鍋にさつま芋を入れ、ガスこんろで焼いていたが、焼き上がるまでとその場を離れている間に、鍋が空焚き状態となった。	男性と同じ共同住宅に住む隣戸の女性（30歳代）が、警報音が聞こえたので、外に出てみると、男性の住戸から煙の臭気がしたので119番通報した。なお、男性は耳が遠く警報音に気づいていない。	非火災
12	8時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が台所で、ガステーブルを使って鍋でご飯を炊いていたが、隣室の居室で家事をしている間に、鍋が空焚き状態になり発煙、居室の煙式住警器が作動した。	女性は、鳴動が続くので、ガス漏れかと思い、台所に行くと鍋から煙が出ていたのでガスの火を止めてから、119番通報した。	非火災

住宅用火災警報器等の奏功事例〔19年〕

月	時間	奏功機器	出火原因	発見・通報・初期消火	備考
12	13 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が、ガステーブルに鍋をかけて調理中に、そのことを忘れ外出してしまったために鍋が空焚き状態になり発煙した。	通行中の男性が、建物内から、「火事です」の警報音声が聞こえたので、携帯電話から119番通報した。	非火災
12	20 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	電気ストーブ（カーボンヒータ）の電線コードが半断線状態となり、発熱発火した。（社告品）	女性（70歳代）が台所にいたところ、台所に設置している火災・ガス漏れ複合型警報器から「火事です」と音声警報が聞こえたので、隣室を見ると電気ストーブ付近から炎が上がっていた。隣戸の女性に通報を依頼した後、電気ストーブなどをベランダに出し、植木用に汲み置きしていた水バケツをかけ消火した。	
12	14 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が、ガステーブルでフライパンを使って、鶏肉を焼き始めた後、廊下を挟んだ居室でテレビを見ているうちに、鍋が空焚き状態になり発煙した。	隣家の屋外で大作業をしていた作業員が、きな臭いにおいと「ピーピー」と警報音が聞こえてきたので、火事だと思い119番通報した。通報後隣家に行くと、フライパンから煙が出ていたので、ガステーブルのコンクを閉止した。居住者の女性は住宅用火災警報器が鳴動していることに気づかなかった。	非火災
12	17 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が鍋に水と餅を入れ、ガステーブルにかけ点火したまま外出したために、鍋が空焚き状態となり発煙した。	近隣の男性（70歳代）が自宅の雨戸を閉めていると、ピーピーと音が続くので、外に出てみると、共同住宅の3階の窓が赤くなっていた。近隣の男性から知らせを受けた同共同住宅の男性が3階に行くとき窓越しに炎が見えたので、階下にいた女性に通報を依頼した。依頼を受けた女性が119番通報した。	非火災
12	17 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）が魚をガステーブルのグリル部で焼いていたが、飲酒していたためにこたつの中で寝てしまい、そのうちグリルに溜まっていた油かすに火がつき、排気口から出た炎でガスホースが焼損した。	男性の妻（60歳代）がテレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の「火事です」という音声警報が聞こえた。戸を開けて台所に行くと台所は黒煙が充満していたので、110番通報し、水道水をかけ消火した。	
12	13 時頃	住宅用火災警報器	空気清浄機に至る配線が短絡し出火した。	男性（70歳代）が2階寝室でテレビを見ていると、煙たさを感じたので廊下に出ると、娘の部屋で警報音が鳴り、煙が出ていた。1階にいる妻（70歳代）に火災を知らせ、1階に消火器を取り行った。妻が1階からやかんを運び燃えていた内壁に掛け、さらに同男性が消火器で消火した。一方、子どもを迎えに行く途中の女性（40歳代）が路上で警報音と煙がただよっていたので火事だと思い携帯電話で119番通報した。	

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
1	15 時頃	住宅用火災警報器	女性(60歳代)がガスコンロを使って鍋で煮物を調理中に、隣棟の作業所に行って作業していたところ、鍋が空焚き状態となり発煙した。	隣棟に居住する主婦が部屋にいと、隣の長屋から警報音が聞こえ焦げ臭い匂いもしたため、長屋に行って声を掛けたが不在だったので、隣の作業所にいた女性(行為者)に状況を知らせた後、119番通報した。 知らせを受けた女性は、自宅に戻るとガスコンロ上で煮物が焦げ、煙も充満していたので、コンロの火を止めた。	非火災
1	21 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性(70歳代)が鍋で魚と野菜の煮物を温めるために、ガスコンロに火をつけ、隣室で寝入ってしまったために、鍋が空焚き状態となり発煙した。	共同住宅隣戸の男性が帰宅し、室内にいた時に隣戸から警報音が聞こえたので廊下に出ると換気扇から煙が出ていたので、近くに居住する大家に電話した。大家の息子が確認に向かう途中、アパートの2階に上がる階段部分で煙が見えたので携帯電話で119番通報した。居住者の男性は消防隊が到着しても寝入っている状態であった。	非火災
1	9 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性(30歳代)が電気ストーブをつけたまま就寝し、就寝中にストーブに毛布が接触し出火した。	就寝中、台所に設置の火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音声で目が覚めた。自分の掛けていた布団から煙が出て、部屋に煙が充満していたので、台所からやかんに水を汲んでかけ、消火した後119番通報した。同人は下腿部に軽い熱傷を負った。	
1	5 時頃	住宅用火災警報器	女性(80歳代)が起床後、同室の石油ストーブを点火し、部屋が暖まるまでと、もう一度布団に入っていると、石油ストーブの芯のあたりが燃え出した。	長屋住宅に居住する男性(50歳代)が就寝中、隣戸から住宅用火災警報器の警報音が鳴りつづくので、玄関から外に出ると、隣戸の換気扇から煙が出ていた。火事だと大声で叫び、その声を聞いた長屋住宅の女性が119番通報した。火災を発見した男性は、部屋から助けを求める女性の声があったので、ドアを開けると石油ストーブから炎が上がっていたので、女性を屋外に出した後、洗面器に水を汲んで消火した。	
1	0 時頃	住宅用火災警報器	男性(60歳代)がガスコンロに鍋をかけたまま出勤したため、鍋が空焚き状態となった。	共同住宅隣戸の居住者が、警報音が長く続くので、屋外通路に出て隣戸を見ると、換気扇から白煙が出ていた。玄関ドアを叩いたが返事がなかったので119番通報した。消防隊が窓を破壊して、進入、ガスコンロの火を止めた。	
1	23 時頃	住宅用火災警報器	男性(70歳代)が、オーブントースターで魚を焼いていたところ、トースター下部のトレーに溜まっていた油がヒータの熱で発火し、段ボール箱に着火した。	男性が台所で他の調理をしていたところ、台所設置の住宅用火災警報器が鳴動した。オーブントースターを見ると、置台に使っているダンボールから煙が出ていたので、水道水をボールに汲んで消火した。同じ共同住宅の居住者が警報音で駆けつけ、119番通報した。	

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
1	5 時頃	住宅用火災警報器	男性(20歳代)が電気ストーブをつけたままで就寝中、掛け布団がストーブに接触し着火したもの。焦げ臭さで目を覚ました男性は、布団を廊下に持っていき水をかけて消火したが、完全に消しきれてなかったために再燃した。	男性が就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、煙が充満し、廊下に出しておいた布団がくすぶっていたので、再び水をかけ消火した後、屋外のゴミ置き場に運んだ。近所の主婦がゴミ置き場で布団が燻っているのを発見、足で踏み消した後、消防出張所に通報した。	
1	12 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性(70歳代)が天ぷら鍋を使って調理中、飛び散った油が鍋の外側に付着、その場を離れている間に、垂れてきた油がガスの炎で引火した。	女性は出来上がった料理を居間に配膳中、台所に設置の火災・ガス漏れ複合型警報器から「火事です、火事です」の警報音声が聞こえたので台所に行くと鍋から炎が立ち上がっていた。娘(47歳)に通報をさせ、鍋の蓋を被せ、その上に座布団を覆い、水道水をかけて消火した。	
1	20 時頃	住宅用火災警報器	女性(70歳代)が台所で天ぷらを揚げている際に、電話を受け、話している間に天ぷら油が過熱し発火した。	女性は住宅用火災警報器の警報音に気づき台所に戻るとフライパンから炎が立ち上がっていたので、水に浸したバスタオル数枚と鍋の蓋でフライパンを覆い、水道水をかけて消火した。	
2	1 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性(20歳代)が暖をとるためカーボンヒータをベッドのそばで使用していたが、就寝中に掛け布団がヒータに接触し出火した。	男性は就寝中、ガス漏れ複合型警報器の警報音で目を覚ますと布団が燃えていたので、布団を叩いて消火を試みたが消火できなかった。同共同住宅に居住する男性(30歳代)は、「火事だー」という声で外に出ると黒煙が見えたので119番通報した。	
2	2 時頃	住宅用火災警報器	男性(20歳代)が電気ストーブをつけ、布団に入りながら携帯電話を操作しているうちに寝入ってしまい、就寝中に掛け布団がストーブに接触し出火した。	男性は就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、室内は煙が充満し、掛け布団に炎が見えたので、足で踏み消した後、119番通報した。	
2	2 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性(40歳代)が台所でガステーブルを使って煮物をしている途中で別室で寝込んでしまったために、鍋の空焚きとなり発煙した。	同共同住宅の上階に居住する女性(40歳代)が階下から「火事です」と音声がかかったので、外に出ると、階下の換気扇から白煙が噴出しているのを、ドアを叩いたが応答がなかったので119番通報した。	

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
2	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が味噌汁の入った鍋をガステーブルにのせ、温めている間に、近くにあった合成樹脂の食器ケースに接炎し出火した。	同女性（全盲）がガステーブルの火を消した後も付近が温かいので、変だと思っていたところ、台所に設置してある住宅用火災警報器が鳴動した。火災だと思い廊下に出、通りかかった同共同住宅の居住者の女性（60歳代）に火災を知らせた。知らせを受けた女性は、室内を見ると食器ケースの蓋が燃えていたので、タオルに水道水を含ませ叩き消した。通報は民生委員が現場を確認後近くの消防出張所に来所し状況を知らせた。	
2	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が台所で、ガステーブルを使って、鍋で餅を煮付けている途中で、隣室でテレビを見ていたために鍋の空焚きとなり発煙した。	テレビを見ていた女性（70歳代）は台所に設置の火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音声で、異常に気づき、ガステーブルのスイッチを切った。一方隣家の住人が「火事です」の警報音声を聞きつけ119番通報した。	非火災
2	17 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）が布団上で飲酒しながら吸っていたたばこの火種が布団上に落下し、無炎燃焼を継続後出火した。	火元の男性は買い物から帰宅する途中の共同住宅の階段付近で住宅用火災警報器の鳴動音を聞き、階段付近で出会った同共同住宅の居住者と共に自室に戻ると煙が充満し、布団が燃えていた。火元の男性は燃えていた布団に水道水をかけ消火した。一方出合った男性（70歳代）は自室に戻り119番通報した。	
2	12 時頃	住宅用火災警報器	男性（80歳代）が台所でガスコンロを使って、鍋で煮物をしている途中に、隣室でテレビを見ていたために鍋が空焚き状態となり発煙した。	隣人の女性が住宅用火災警報器の音と2階からの煙で火事だと思い、男性宅に行くと煙が多かったので119番通報した。男性は隣人の声で初めて気がつきコンロの火を止めた。	非火災
2	11 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が台所でガスコンロを使って、鍋で小豆を煮ながら、隣室で家事をしている間に鍋が空焚き状態となり発煙した。	女性は台所で警報音がしたので、何が起きたのか分らず、誰かに知らせなければと外に出た。3軒隣で改装工事をしていた工務店員に出会い、警報音のことを知らせた。工務店員が女性宅に行くと、警報音が鳴動しており、白煙と焦げ臭い匂いもしていたので、女性宅の電話から119番通報した。	非火災
2	20 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼いていたが、そのことを忘れその場を離れているうちにグリル内の油かす等に着火した。	男性（20歳代）は隣室の居室でくつろいでいたところ、台所から警報音がしたので、台所の扉を開けると、煙が充満しグリルの排気口から炎が出ていた。男性はグリルの点火スイッチを切った後、水に濡らしたタオルを被せ、その上から水をかけ消火した。窓を開け排煙した後119番通報した。	
2	0 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（20歳代）が灰皿にためてあったたばこの吸い殻をごみと一緒にビニール袋の中に入れて洗濯機の上に置いていたため完全に消えていなかったたばこが燃え出した。	男性（20歳代）は就寝中、警報音で目を覚ますと部屋の中に煙がただよっていた。台所のほうを見るとごみ袋から炎が立ち上がったので水道水をコップに汲んでかけたが消えなかった。煙だったので玄関のドアを開け外に出た。共同住宅の隣に住む男性が水バケツを持ってきて燃えているごみ袋にかけて消火した。通報は通行人が携帯電話から119番した。	

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
2	5 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が、石油ストーブの燃焼筒を外して使用する等不適切な使用をし、さらに何等かの原因で灯油をこぼしたために引火した。	2階で就寝していた娘（40歳代）が火災・ガス漏れ複合型警報器の鳴動に気づき、階下に行くと言った。石油ストーブが燃えていた。新聞配達員（近隣者）が帰宅途中鳴動音と煙が見えたので、自宅から消火器を運んで消火した。	
2	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）が所有する食器洗い乾燥機のヒーター部端子接続部のゆるみにより発熱出火したものと推定	3階にいた男性（30歳代）は寝ようとしたところ、階下から住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので、2階に下りると台所が煙で充満していた。食器洗い乾燥機の扉を開けたところ炎がでていた。3階にいた妻（30歳代）と1階にいた母親（50歳代）が警報音で2階にきてボールやコップを使って消火した。消火後、119番通報した。	
2	20 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が台所でガステーブルを使って煮物をしている途中で別室にいて、夫（80歳代）とテレビを見ていたところ、鍋が空焚きとなった。	夫（80歳代）はテレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の警報が鳴り出したので、台所に行くと言った。鍋から煙が出ていたので、ガステーブルの点火スイッチを切ってから119番通報した。	非火災
2	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）が台所でガステーブルを使って煮物をしている途中で別室にいて、横になっているうちに寝込んでしまい、鍋が空焚きとなった。	同じ共同住宅に居住する女性（40歳代）が通勤のため共用通路を通っていたところ、室内から「ピョーピョー」と音が聞こえたので、ドアポストに耳を当てると、「火災警報器が作動した」と警報音声が続いていた。管理人に知らせ管理人とともにドアを叩いたが応答がなく、ドアポストの隙間から白煙が見えたので119番通報した。なお、居住者の女性は消防隊が到着するまで警報音に気づいていない。	非火災
2	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）がレトルト食品をガスコンロで調理中に別室で寝込んでしまったために、鍋が空焚きとなった。	男性は住宅用火災警報器の警報音で目を覚ましたところ鍋から煙が出ていたので、ガスコンロの点火スイッチを切った。同じ共同住宅に居住する男性が住宅用火災警報器の警報音が続くので119番通報した。	非火災
3	21 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が2階の台所でコンロを使って調理中、入浴してしまっただけで鍋が空焚きとなった。	女性（70歳代）が1階で入浴中に住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので、2階の台所に行くと言った。鍋から煙が出ていたのでコンロのスイッチを切った後119番通報した。	非火災
3	13 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）が昼食の準備でガスコンロを使って調理中に別室で寝込んでしまったために、鍋が空焚きとなった。	同じ共同住宅の直上階に居住する男性（30歳代）が自室にいたところ、警報音がするので、ベランダに出ると、下の階から煙が上がっており、途切れる気配もないので火災だと思い119番通報した。占有者の男性は警報音に気づいていないと推定される。	非火災
4	11 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が昼食の準備でガスコンロを使って調理中に外出してしまっただけで、鍋が空焚きとなり発煙した。	隣人女性（50歳代）は、自宅3階にいと、窓越しに隣家の窓から煙が見え、「火事です火事です」との警報音が聞こえたので、火事だと思い誰かに知らせるために外に出ると、隣人の女性（40歳代）がいたので、火事を知らせ、自宅に戻り119番通報した。	非火災

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
4	12 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が湯沸し用電気ポット（プラスチック製）をガスコンロにのせてスイッチを入れたためポットが燃え火災となった。	同居者男性（80歳代）は居間にいると住宅用火災警報器の「火災が発生しています」との音声を聞いて台所に行くと、ガステーブル上の湯沸し用電気ポットが燃えているのを発見した。ガステーブルの火を止め、ガステーブルを外に出した。隣人の女性（30歳代）は自宅で洗濯をしている際にピーピーという音と「火災が発生しています」との音声を聞いたので火事だと思い自分の携帯電話で119番通報した。	
4	1 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）は、煮物が入った片手鍋をガステーブルにかけ、温まるまで隣の部屋で待った。男性は、コタツに入って寝てしまい、その間に鍋が空焚き状態となって発煙した。	隣人の男性（70歳代）は隣の家からピーピーという警報音を聞き、隣を見ると電気がついていたが、誰も警報音を停止する様子もなく、鳴り続いたので、自宅の電話で119番通報した。	非火災
4	0 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、やかんをガステーブルに掛け、寝てしまったため、発煙し空焚きとなった。	隣家の男性（年齢不明）は、隣家の住警報器の警報音を聞き、合鍵を使用して中に入ったところ、ガステーブル上のやかんが空焚き状態になっていたため、ガステーブルの火を止めた。なお、居住者女性（90歳代）は、認知症でも耳が遠く、警報器が鳴動していた時は、寝込んでいて気がつかなかった。	非火災
4	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、天ぷらを揚げている際に中にその場を離れたため、天ぷら油が熱せられ発煙した。	女性（70歳代）は、警報器の音で気がつき、台所に行くと天ぷら鍋から煙がでていたので、コンロの火を止めた後119番通報した。	非火災
4	0 時頃	住宅用火災警報器	隣棟建物との敷地内にあるごみ上に、火の付いたたばこの吸い殻を投げ捨てたため、時間の経過とともに出火したものと推定。	男性（40歳代）は、店舗併用住宅の飲食店を閉店させ、2階の自宅にいたところ、きな臭い臭いがしたので外へ出ると、白い煙が上がっているのを確認し、店長へ連絡した。連絡を受けた店長は、住宅に設置した住宅用火災警報器が鳴動していたので、公衆電話から119番通報した。 建物の外の堆積していたゴミに、何者かが火のついたたばこを投げ捨てたため出火し、その煙が住戸内に入り発報したものの。	
5	5 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、パスタを茹でようとしてこんに鍋をかけ、火を点けたまま居間で寝てしまったため、鍋が空焚きとなり発煙した。	男性（30歳代）は、居間で寝てしまったが、警報音で気がつき、台所に行ってこんの火を止めた後119番通報した。	非火災

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
5	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（20歳代）は、13時間前に3階の自室でたばこを吸い、吸殻を灰皿で消したが完全に消えていないと認識しつつも、そのまま紙くず等の入ったビニール製のゴミ袋に入れてその場を離れたため、時間の経過とともに無炎燃焼を継続し出火した。	男性（10歳代）は、3階の自室でテレビゲームをしていると、廊下の方から警報音が聞こえたため廊下に出て長女（20歳代）の部屋を見ると、窓側近くで炎が見えたので火事だと思い、2階に降りて父親（50歳代）に知らせた。3人協力して台所からバケツに水道水を汲んで消火したが効果はなく、父親が2階から119番通報したところ、すぐ避難するよう指示されたので4人全員で避難した。なお、父親は、初期消火の際、炎に煽られて顔面に熱傷を負った。	
5	1 時頃	住宅用火災警報器	女性（40歳代）は、母親とけんかした後、ライターで紙に火を点けダンボールの上に置いたため燃え上がったもの。	女性（40歳代）は、自分でライターで紙に点けた後、外に出たが、怖くなって公衆電話から119番通報した。就寝中の女性（60歳代）は警報器の音で目を覚まし、煙に気付いて外に避難した。	
5	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、魚を温めようとガスグリルに入れ、火を点けたのを忘れて寝てしまったため、魚が焦げて発煙した。	向かい側建物4階の住民が自宅ベランダ側から警報音を聞き、すぐ音のする建物に向かったが玄関は施錠されていた。内部は確認できなかったが、同様に駆けつけた近隣の女性（70歳代）の携帯で119番通報し、他の近隣女性（60歳代）は、ガラス窓を叩いて居住者に火災を知らせ、音で気がついた居住者女性（90歳代）が玄関の鍵を開けたので、中に入ると台所の方から煙が出ていた。ガラス窓を叩いた女性は、窓を開け、ガステーブルの火を止め、住警器を停止させた後、居住者と一緒に外に出た。	非火災
5	10 時頃	住宅用火災警報器	居住者が、味噌汁を温めようと、台所のガステーブルに鍋をかけたが、そのまま忘れて全員で外出したため、鍋が空焚き状態となり、発煙したものの。	隣家の女性（50歳代）は、警報音に気づき、隣の家から煙が出ているのを確認した。外に出ると、きなくさい臭気を感じたため、近くにいた人に火災の通報を依頼した。通報の依頼を受けた男性（50歳代）は自分の携帯電話で119番へ通報した。	非火災
5	2 時頃	住宅用火災警報器	何者かが何等かの火源を用いて、玄関先に置かれた傘に放火したものの。	女性（30歳代）は、自宅3階の部屋でテレビを見ていると、「ピーピー」という警報音がしたので階段を下りていくと、2階の踊り場で、きなくさい臭いと白い煙が充満していたので、夫（20歳代）に知らせた後、携帯電話で119番通報した。隣人男性（30歳代）は、自宅2階で寝ていると、外で男が騒いでいるので窓を開けて見ると「火事だー」と叫んでいるので外に出た。同男性は、2件隣の玄関先が炎を上げて燃えていたのを確認し、自宅玄関の水道ホースを延長し水道水により消火した。	

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
5	8 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は、スパゲッティを茹でようと鍋に水を入れて、ガステーブルに火を点けたまま、寝てしまったため、鍋が空焚き状態となり発煙した。	隣人男性（30歳代）は、アルバイトから帰宅すると、隣の部屋からピーピーという警報音が聞こえたので、ドアをノックした。応答がなく扉を触ると熱かったので火事かも知れないと思い、携帯電話で119番通報した。消防隊が到着した頃、居住者は目を覚まし、ガスを消し、ドアを開けたので、消防隊が部屋に入り確認すると鍋が空焚き寸前の状態であった。	非火災
5	21 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、夕食の準備のため片手鍋をガステーブルに掛け火を点けたまま寝てしまったため、時間の経過とともに鍋が過熱され、出火した。	同じアパートの居住者女性（50歳代）は、外出先から戻ってきたところ、アパートの1室から住宅用火災警報器が鳴っており、窓の隙間から焦げくさい臭いがしたので、火事だと思い携帯電話で119番通報した。その部屋に寝ていた男性（70歳代）は、消防隊にインターホーンで起こされて台所のガステーブルの火を止めた。	
5	4 時頃	住宅用火災警報器	冷蔵庫の上に乗せてある電子レンジに、使用していた延長コードをドア枠等にステップルで止め固定していたため、縫い線が破損し、ジュール熱が蓄積されコードの被覆が溶融し、短絡し、出火した。	居住者の男性（30歳代）は就寝中、警報音で目を覚ました。男性は、煙の場所を確認したところ、台所の冷蔵庫の裏側から火が出ていたので「火事だ」と叫んだ。別棟のアパートの居住者女性（60歳代）は、男声の叫び声を聞き付け外を見ると、北側の建物から白煙が出ていたので携帯電話で119番に通報した。	
6	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、味噌汁をガステーブルに掛け、温まるまで居間でテレビを見ていたため、味噌汁が沸騰して空焚き状態となり発煙した。	女性（70歳代）は、居間でテレビを見ていたところ、突然住宅用火災警報器が鳴ったので、味噌汁を温めていたことを思い出し台所に行くと、鍋から煙が出ていたので、ガスを止め、その後119番通報した。	非火災
6	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、魚を焼いている際にその場を離れて居室で眠ってしまったため、魚が焦げて発煙した。	隣人男性（40歳代）は、自宅にいと隣の家から警報音が聞こえるので火事だと思い自宅の電話で119番通報した。本人は、通報者に起こされた後、自分でガスの火を止めた。	非火災
6	11 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）は、ベッドでたばこを吸っていた際、たばこの火種が布団に落下したが、気付かずに寝てしまったため、時間の経過とともに無炎燃焼を継続し、出火した。	同じ建物に住む男性（70歳代）は、自宅1階の台所付近にいと隣の家から「ピーピー」という音が聞こえた。男性は、妻（70歳代）に119番するように伝え、隣の家の中を確認しようとしたところ、玄関の引き戸に鍵が掛かっていたので戸を何度も叩き居住者の男性に鍵を開けさせた。男性は、部屋の中を確認すると、ベッドの布団から煙が出ていたので、台所にあったバケツに水を汲み、布団に3～4回かけて消火した。	

住宅用火災警報器等の奏効事例〔20年〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
6	14 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、天ぷらを揚げるため、油の入った鍋をこんろに掛けたまま、その場を離れたため、時間の経過とともに鍋が過熱され、発煙した。	隣家の女性（50歳代）が自宅でピーピーという警報音を聞き付け、外へ見に行くと、勝手口で住宅用火災警報器の外部スピーカーが鳴動していた。友人の女性（30歳代）に119番通報を依頼した。なお、火元の居住者女性（80歳代）がガスこんろの火を止めた。	非火災
7	21 時頃	住宅用火災警報器	放火の可能性	子供（5歳）は、自宅2階で本を見ていると1階でピーピーと警報音がしたので、1階に降りると煙でいっぱいだったので自宅東側のガレージに行き父親（40歳代）に知らせた。隣人の女性（60歳代）は、自宅2階ベランダにいたところ、「火事だ」という子供の声を聞き、隣の家に行くと白煙が出ていたので119番通報した。火事になった家の男性（40歳代）は、自宅のホースを延長し水道水により消火した。	
7	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、カレーを温めようと鍋をガスこんろに掛け火を点けたまま外出してしまったため、鍋が過熱され空焚き状態になり発煙した。	同じアパートに居住する男性（60歳代）は、805号室の前を通った時、強い臭気と警報音を聞き、廊下にあるガスの緊急停止ボタンを押すとともに804号室の女性（60歳代）に119番通報するよう依頼した。依頼を受けた女性が119番通報した。	非火災